IGC 事務局ニュース

No. 20

第29回IGC事務局

電　話：0298—54—3627
ファクス：0298—54—3629

IGC 開催閣議決定！

政府は6月7日の閣議で，学術会議から提案されていた1992年京都 IGC の開催を了承しました．今後は関係各省庁がその開催に協力していくことが申し合わされました．

8月1日には学術会議主催の「組織委員会」も開催されることになりました．

科学展示会への出展を募集しています

展示小委員会では下記の要領で京都国際会館展示ホールで行われる科学展示会への出展を募集しています．

展示期間区分

1)　8月24日（月）～8月27日（木）
2)　8月31日（月）～9月3日（木）
3)　8月24日（月）～9月3日（木）

展示区画の区分

1)　標準ブース1区画分（3m×3m）
2)　2区画分ブース
3)　アイランドブース（3区画分）
4)　アイランドブース（4区画分）
5)　アイランドブース（6区画分）
6)　アイランドブース（12区画分）

標準的な装備や価格等，詳しいことについてはIGC事務局科学展示会係へお問合わせください．

外国人は「納豆」が苦手？ 地質屋はどうでしょうか？

2nd サーキュラーで提示された巡検のリーダーの方々は目下コースの下見やホテル・食事・サービス等の面でいろいろと頭を悩ましていることと思います．外国人ができるだけ快適に過ごせる計画を立てるための参考資料にと，金沢大学理学部の石渡　明氏から写真のような某新聞の囲み記事がおくられてきました．それによると，外国人が好きな日本食（複数回答）では寿司，てんぷらが多く，苦手なものは納豆（42.9%）が圧倒的だということです．

さて，何事にも好奇心の旺盛な地質屋さんはどうでしょうか．

事務局では皆様からの様々なご意見やご質問を歓迎しています．

在日外国人の日本食意識

人気はすし 納豆が苦手

在日外国人に人気の日本食はすし、苦手は納豆―。雪印乳業が東京在住の外国人百二十一人に聞いた日本食についての調査でこんな結果が出た。

好きな日本食（複数回答）ではすし（三八・八%）、てんぷら（二〇・七%）が多く、刺し身は「好き」（二一・六%）、「嫌い」（七・四%）と二極分化した。苦手なものは納豆（四二・九%）が圧倒的。おでんやモズク、ウニと答えた人もいたが、逆にそれだけ日本独特の風味にトライする外国人が増えたとも言える。

不思議に思う食習慣は、「めん類を音を立てて食べる」と指摘する人も一二・四%あり、すし人気とは裏腹に〝生もの〟にはまだ抵抗感があるようだ。

日本食のイメージとしては「健康的」（三一・二%）「彩りがよい・美しい」（二七・三%）と、おおむね好感度。「日本の食生活に不自由を感じるか」との問いには六三・六%が「感じない」としながらも、日本食を食べる時にスパイスを加えるなど自分なりの工夫をする人も半数近くあり、慣れぬ異国の食文化と必死に格闘する姿もうかがえる。

回答した百二十一人は、男性は七十八人、女性四十三人。在日年数は一年が五十三人と最も多く、六年以上も二十一人いた。国別では、米国四十人、英国二十八人、オーストラリア、カナダ各九人、中国、西ドイツ、フランス、スウェーデン、韓国各四人などとなっている。

〝生もの〟には抵抗感

写真　1989年10月26日付，中日新聞より転載